

## 1. 調査目的等

小学校1年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善に役立てる。

## 2. 学校ごとの指標

○平成30年度のNRT学力検査で、全学年の平均値54を目指す。

## 3. 指標にむけての取組

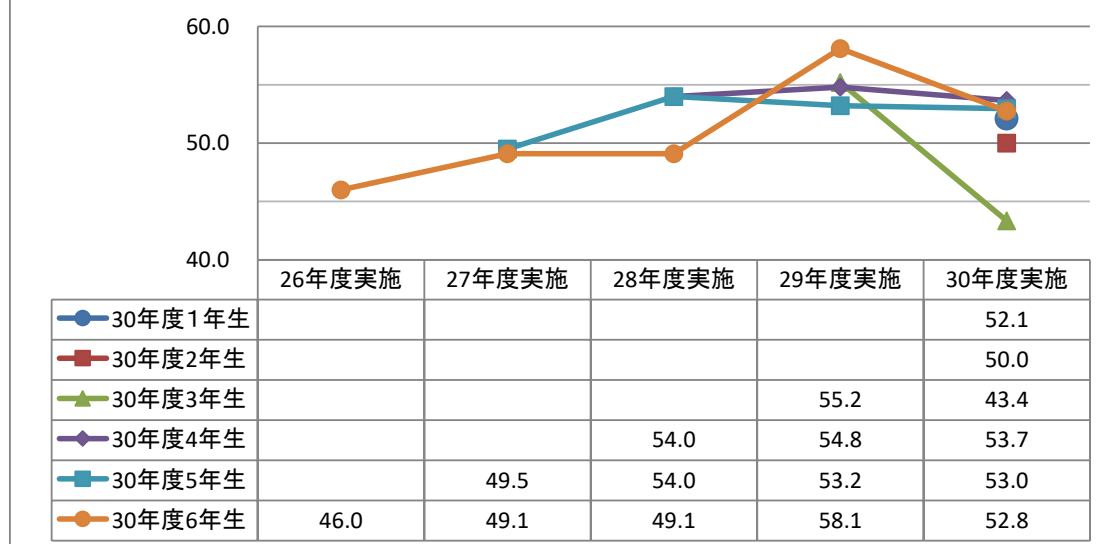
- 複数体制による算数科学習指導(全学年 学期に1単元実施:TTまたは分割授業)を実施する。
- テスト後に「補充の時間」を設定する。

## 4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
本校(A)	46.8	49.9	52.4	54.0	50.8
嘉麻市(B)	50.0	50.8	50.7	51.5	51.4
(A)－(B)	-3.2	-0.9	1.7	2.5	-0.6
標準偏差値との差 (A)－(50)	-3.2	-0.1	2.4	4.0	0.8

### 各学年の推移



## 5. 各学校における分析

学校全体としては、国語49. 2、算数52. 4、全体平均50. 8であった。  
算数科においては、複数体制による授業の実施や全職員による朝の活動への徹底が実を結んだと考える。  
国語科においては、「読むこと」「書くこと」に課題がある。これは、語彙の少なさや文章を読むこと・書くことへの抵抗感が依然として大きいことに要因があると考え。  
さらに、協働体制を高め、学力向上具体策がどの学級においても浸透していくよう、学力向上推進委員会の機能化を図る必要がある。  
テスト後の指導については、学級単位で主に教育課程外の活動で実施したが、今後は単元構成の工夫を行い、単元の設定時間内において習熟度別指導の徹底を図る必要がある。

## 6. 各学校における今後の取組

### 【算数科における取組】

- 複数体制による授業の実施。〈継続〉
- 単元構成の工夫による評価後の指導の充実(習熟度別分割授業の実施と通過率の向上)〈継続・充実〉

### 【国語科における取組】

- 1・2年生においては、MIMの計画的な実施による、初期段階での読みのつまづきの克服と読むことへの意欲の向上を図る。〈継続〉
- 読書活動を充実させ、読解力の向上を図る。〈新規〉
- 評価後の個別シートの活用により、個に応じた指導を充実させる。〈新規〉

### 【教育課程外の取組】

- 朝のチャレンジタイムを通して、基礎基本の定着を図り、繰り返し指導を行う。〈継続〉
- 每学期末に実施する漢字・算数検定で「読み・書き・計算」の定着や学習意欲の醸成を図る。〈継続〉

### 【短期検証改善サイクルの確立】

- 単元ごとのデータをもとに、授業の検証改善を短いサイクルで行う。〈継続・充実〉
- 短期検証改善サイクルを全ての学年・学級で確立させるために、学力向上推進委員会において、チェック・アクションの機能を強化する。〈継続・充実〉
- 4年生を重要学年とし、国語・算数の授業を複数体制で行い、個に応じた指導を徹底する。

## 7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◎今後の取組を具体化し推進することができるように、特に、次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。
- ◆嘉麻市学力向上推進委員会に基づく学力向上検証改善委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。
- ◆短期スパンでの検証改善サイクルを推進する。そのために、学力向上推進委員会を機能させる指導助言や支援を行う。
- ◆授業研究による授業改善の取組を推進する。そのために、校内研修での授業観察指導及び研究推進員に対する指導助言を実施する。